[6405][KESCO FAQ][COMSOL][マーカー無]Linux®向けライセンスタイプNSLを使用したCOMSOL Multiphysics®6.4のセットアップ（root権限を使用しない場合）

2024年12月24日　　10:58

【タグ】

物理分野

- ☐電磁気学
- ☐化学（電池・電気めっき・腐食）
- ☐流体/伝熱
- ☐構造/音響

カテゴリ

- ☑導入/変更
- ☐製品概要
- ☑チュートリアル

機能

- ☐エラーメッセージ
- ☑インストール
- ☐GUI/便利な機能
- ☐アプリケーションビルダー
- ☐メッシュ
- ☐ジオメトリ
- ☐材料
- ☐フィジックス
- ☐ポスト処理
- ☐スクリプト
- ☐ソルバー

【タイトル】

Linux®向けライセンスタイプNSLを使用したCOMSOL Multiphysics®6.4のセットアップ（root権限を使用しない場合）[6405]

【質問】

下記のCOMSOL Multiphysics®ライセンスファイルを入手しました。このファイルを使用してLinux®マシンにCOMSOL Multiphysics®をセットアップする手順を教えてもらえないでしょうか。ただし、OSのroot権限は使用しないこととします。

項目	内容
指定されたバージョン	6.4 (ビルド293)
ライセンスタイプ	Named Single-User Licenses（以降、NSLライセンス）
プラットフォーム	Linux®

【回答】

ここでは以下を想定したインストール手順を説明いたします。

- 想定

1. ハードウェア
   【1.1】 ストレージは十分な空き容量があります（20GB以上）。
2. ネットワークおよびセキュリティ
   【2.1】 LANもしくはインターネットにアクセスできます。
   【2.2】 ファイアウォールは有効にしておりません。
3. OS
   【3.1】 インストール先のプラットフォームはLinux®です（Windows®ではありません）。
   【3.2】 インストールする時点において、OSは更新プログラム等でアップデート済みです。
   【3.3】 インストール作業を行うユーザーアカウントは下記の制約を設けております。
      【3.3.1】 rootになりません。
      【3.3.2】 root権限のコマンド（sudo）を使用しません。
4. COMSOL Multiphysics®
   【4.1】 指定されたバージョンは 6.4 (ビルド293) です。（注意 1 ）
   【4.2】 COMSOL Multiphysics®のインストール状態は下記の 3 **つを想定します。**
      【4.2.1 過去バージョン用NSLライセンスを適用したCOMSOL Multiphysics®はインストールしたことがなく、指定されたバージョン用NSLライセンスのCOMSOL Multiphysics®を初めてインストールします。
      【4.2.2】 指定されたバージョン用トライアルパスコードを適用したCOMSOL Multiphysics®が既にインストールされております。
         i. 今回、指定されたバージョン用NSLライセンスのCOMSOL Multiphysics®を追加するため、別の場所にインストールしま

す。

ii. 指定されたバージョン用トライアルパスコードでインストールしたCOMSOL Multiphysics®はアンインストールしません。

iii. COMSOLのランチャーは今回インストールする指定されたバージョン用NSLライセンスのCOMSOL Multiphysics®へ上書きします。

【4.2.3】 過去バージョン用NSLライセンスを適用したCOMSOL Multiphysics®がインストールされております。

i. 今回、指定されたバージョン用NSLライセンスのCOMSOL Multiphysics®を新規でインストールします。

ii. 過去バージョン用NSLライセンスで動作しているCOMSOLライセンスマネージャーは本インストール作業を行う前までに停止しております。（注意２）

iii. 過去バージョン用NSLライセンスを適用したCOMSOL Multiphysics®はアンインストールしません。

【4.3】 COMSOL Multiphysicsのインストールディレクトリは下記例のように/home/<ユーザーアカウント名> 配下です。（注意１、注意３）

（例）/home/<ユーザーアカウント名>/comsol##/multiphysics

注意１：指定されたバージョンである二けたの数値（例：64もしくは6.4）を ## と表記しますので、以降は読み替えてください。

注意２：COMSOLライセンスマネージャーを停止する方法は下記FAQで説明しております。

KESCO FAQ：Linux®マシンで起動中のCOMSOLライセンスマネージャーを停止する方法

（上記の下線を引いた文章はURL https://kesco.co.jp/support/10061/ を埋め込んでもらえないでしょうか？）

注意３：/home/<ユーザーアカウント名> 配下にCOMSOL Multiphysics をインストールする場合、このソフトウェアを利用できるユーザーアカウントは<ユーザーアカウント名>もしくは root に限定されます。

コメント：ここで説明する内容は、COMSOL Multiphysics®のインストール手順です。インストール済みのライセンスファイルを今回入手したファイルで差し替えるといった手順ではない点にご留意ください。

• 手順の概要

1. COMSOL Accessアカウントへのアクセス
2. COMSOL Multiphysics®セットアップファイルの入手
3. Linux®向けNSLライセンスを使ったCOMSOLのセットアップ
4. COMSOLライセンスマネージャーの手動起動

5. COMSOLデスクトップの起動

（←ページ内リンクを設定してもらえないでしょうか）

1. COMSOL Accessアカウントへのアクセス

COMSOL社ウェブサイトの「ダウンロード(製品インストーラー)」にアクセスすると、COMSOL Multiphysics®のインストール用セットアップファイルをダウンロードできます。

【1.1】 COMSOL Accessにログインするため、下記URL のページを開きます。

URL：https://www.comsol.jp/access/login

i. 既にCOMSOL Accessアカウントを作成済みの場合、登録済みの「E メール」と「Password」を入力して、[LOG IN]ボタンをクリックします。
ii. COMSOL Accessアカウントを作成していない場合、画面右下隅の「Sign up now」のリンクをクリックして登録を行ないます。
    - COMSOL Accessアカウント登録を完了し、このアカウントを有効化するには、COMSOL社から送付される確認メールに記載されているリンクをクリックする必要があります。そのため、お客様ご自身が受信できるメールアドレスで登録を行なってください。

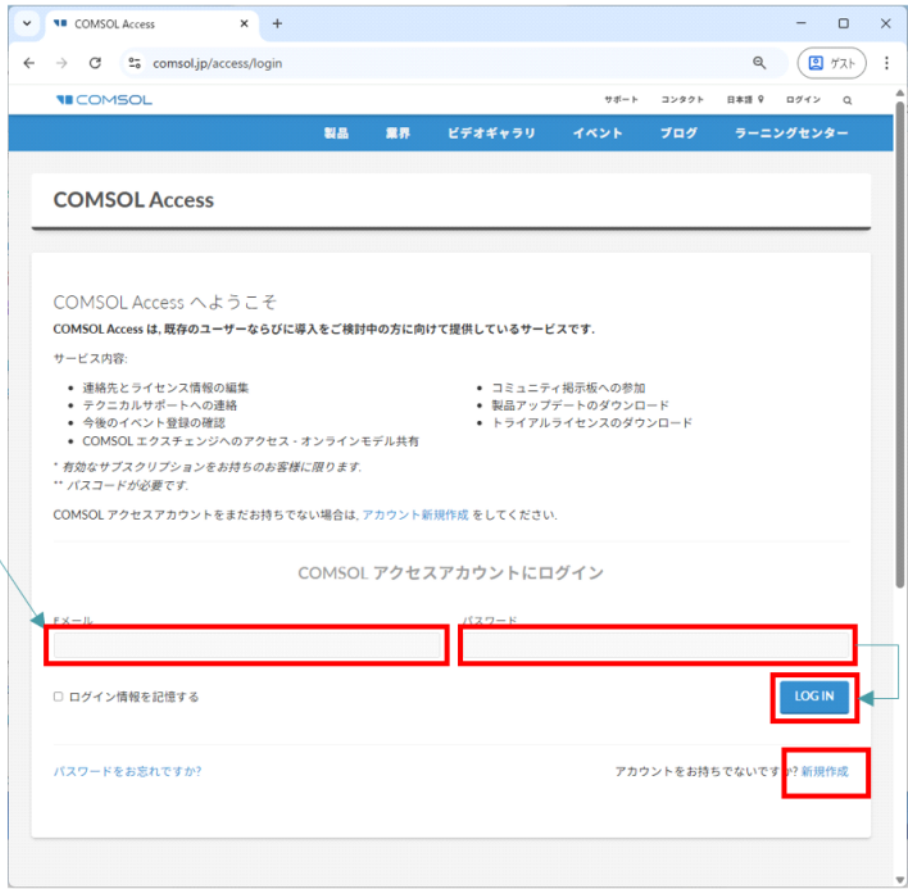

図1-1 COMSOL Access

iii. ログイン後、画面右上に表示されているお客様名をクリックします。すると、「COMSOL Accessアカウントへようこそ！」が表示されます。

iv. 画面右側にある「ライセンス管理（Manage Licenses）」をクリックし、「ライセンス管理」ページに移動します。

図1-2 COMSOL Access

v. 保守期間中のライセンスが表示されることを確認します。ライセンスが登録されていない場合や保守切れのライセンスが表示されると、最新版のCOMSOL Multiphysics®インストレーションにアクセスできません。このような場合、お手持ちの新しいライセンスファイルを「ライセンス追加（Add License）」ボタンで追加します。ライセンスについてご不明な点がある場合、担当営業にお問い合わせください。

図1-3 ライセンス管理

2. COMSOL Multiphysics®セットアップファイルの入手

【2.1】 COMSOL 社ウェブサイトの「ダウンロード(製品インストーラー)」ページを開きます。

URL：https://www.comsol.jp/product-download

画面のすぐ下に、「オンラインインストレーション」枠があります。この中にある「Linux® にダウンロード」ボタンをクリックします。（注意１）

図2-1 オンラインインストレーションのダウンロード画面
（Linux®でログインした場合のウェブ画面）

注意１： Windows®でログインした場合、オプションにある「Linux®」を押下します。

【2.2】 ダウンロードしたファイルを確認します。

i. ダウンロードが完了した後、「保存フォルダーを開く」ボタンをクリックすると、ファイルマネージャー（例：Nautilus）が起動し、その画面にダウンロードされたzipファイル（COMSOL##_lnx.zip）が表示されます。

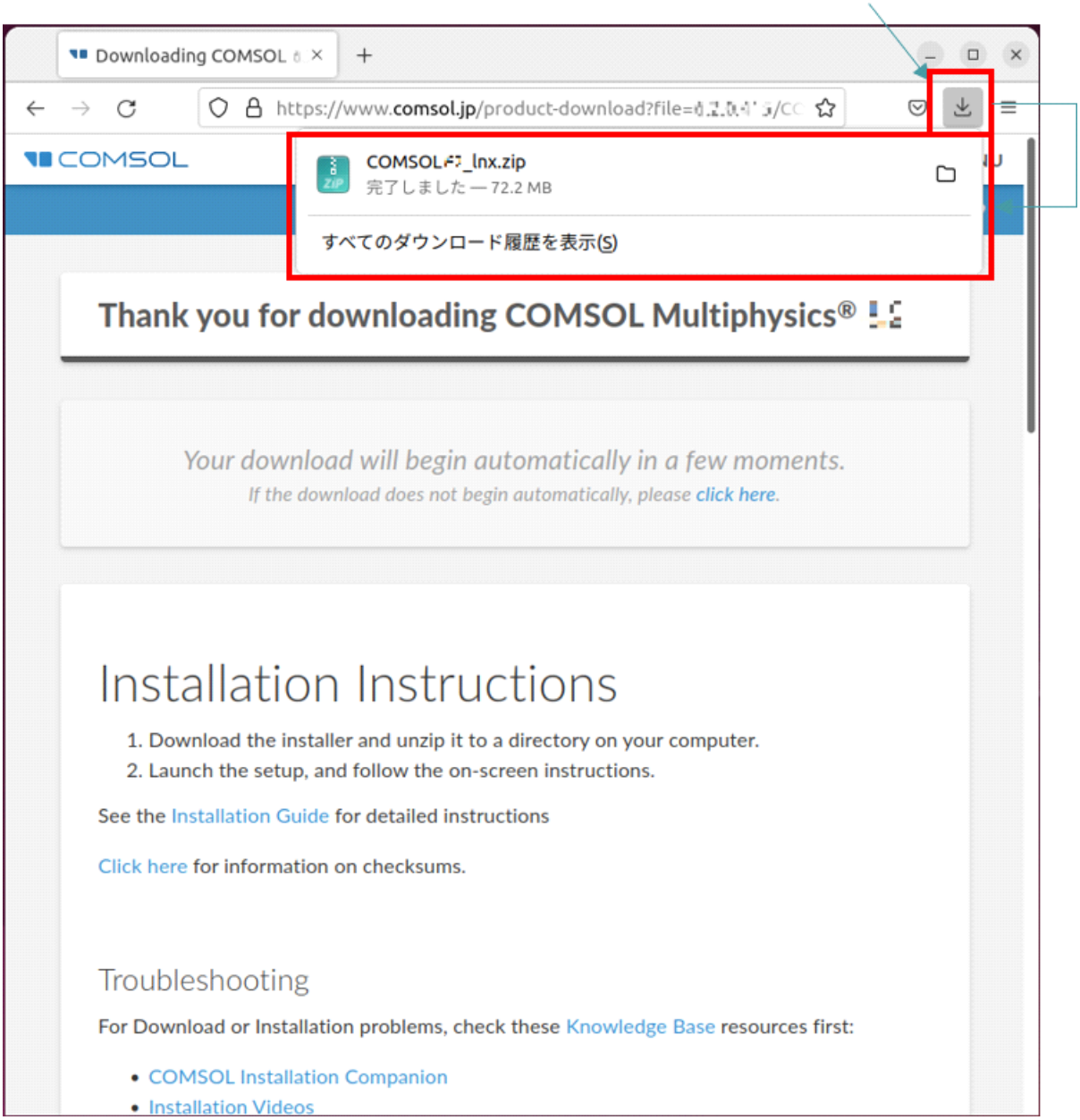

図2-2 「保存フォルダーを開く」ボタンをクリックしてダウンロードしたファイル

ii. zipファイルをこの場所で展開するため、このファイルを右クリック、コンテキストメニューの「ここで展開(E)」を選択します。すると、同じ場所にCOMSOL##_lnxディレクトリが展開されます。

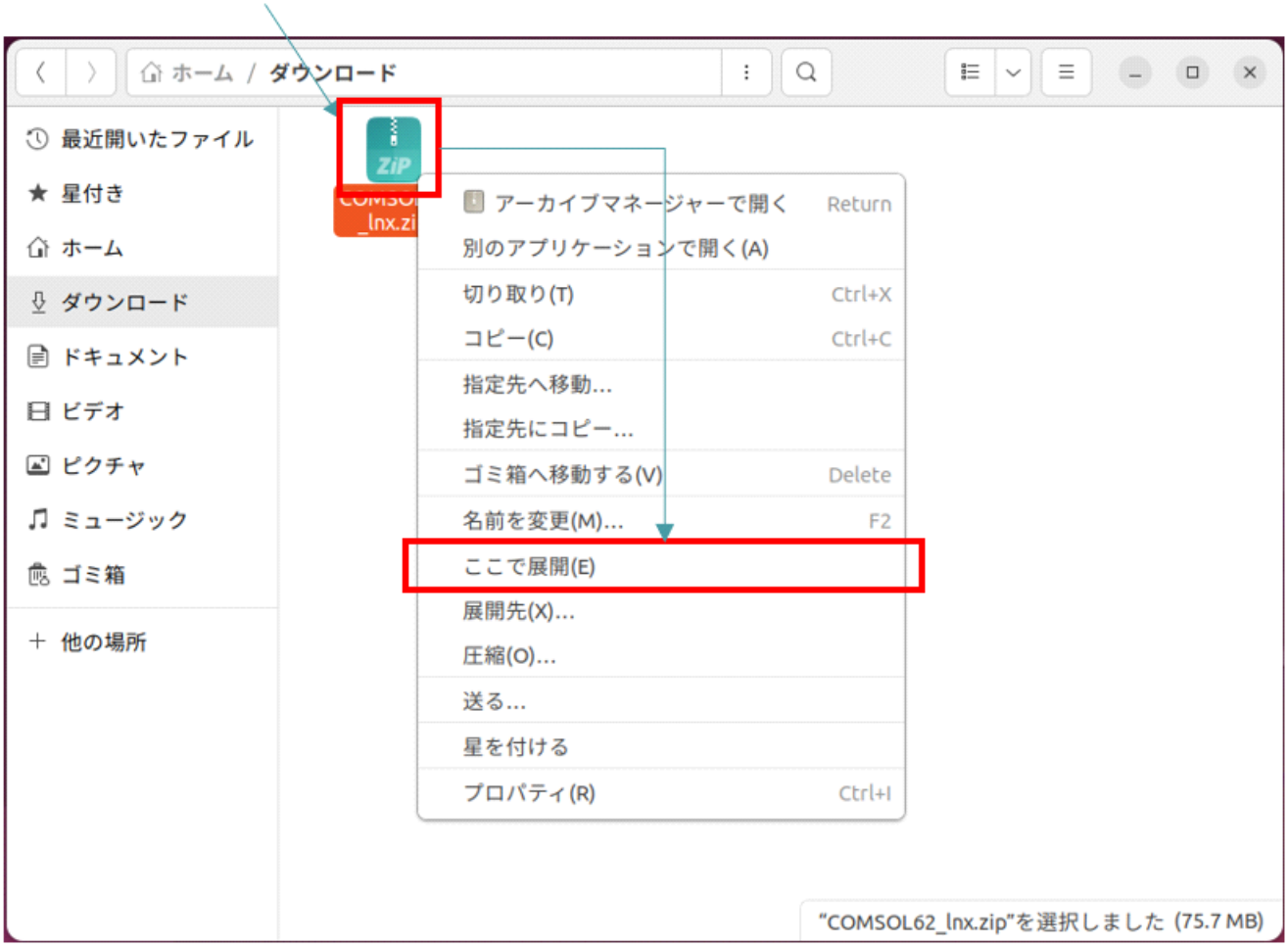

図2-3 zipファイルの展開（例：Nautilus）

3. Linux®向けNSLライセンスを使ったCOMSOL Multiphysics®のセットアップ

Linux®マシンにNSLライセンスを適用したCOMSOL Multiphysics®のインストール方法を示します。

【3.1】 Linux®のデスクトップ環境にログインします。

注意：対話形式でCOMSOL Multiphysics®をインストールするため、GUIを備えたデスクトップ（例：統合デスクトップ環境）にログインします。

図3-1 Ubuntu®の統合デスクトップ環境

【3.2】 NSLライセンスファイルをホームディレクトリに保存します。

i. できる限り分かりやすいファイル名でホームディレクトリに保存します。

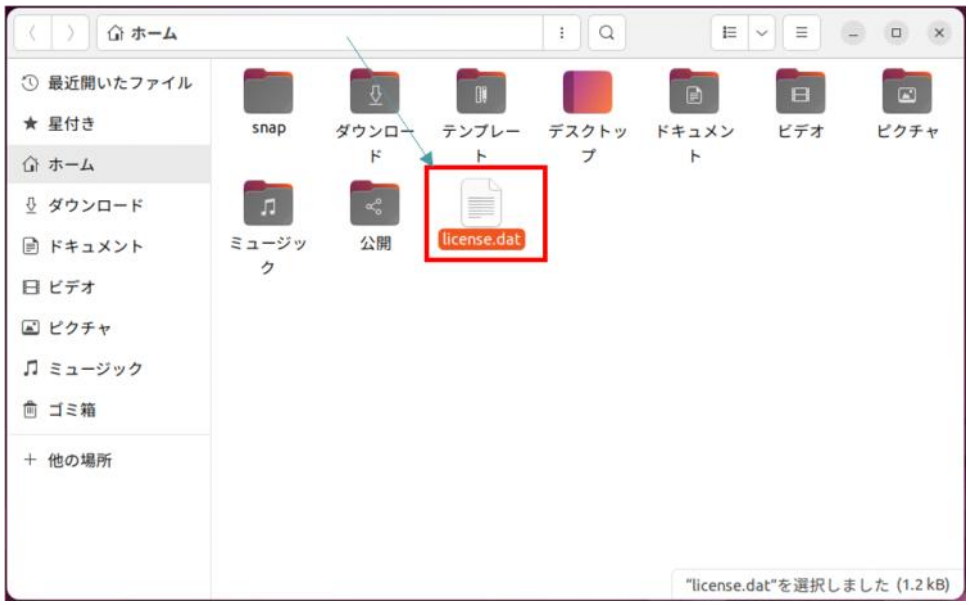

図3-2 ホームディレクトリに保存したライセンスファイル（例：Nautilus）

【3.3】 “COMSOL Multiphysics® インストーラー”を起動します。

[GUI]

i. ファイルマネージャーを使用してCOMSOL##_lnxディレクトリに入ります。（注意1）

ii. setupファイルを右クリック、コンテキストメニューの「プログラムとして実行(R)」を選択します。

⇒ “COMSOL Multiphysics® インストーラー”のGUI画面が起動されます。

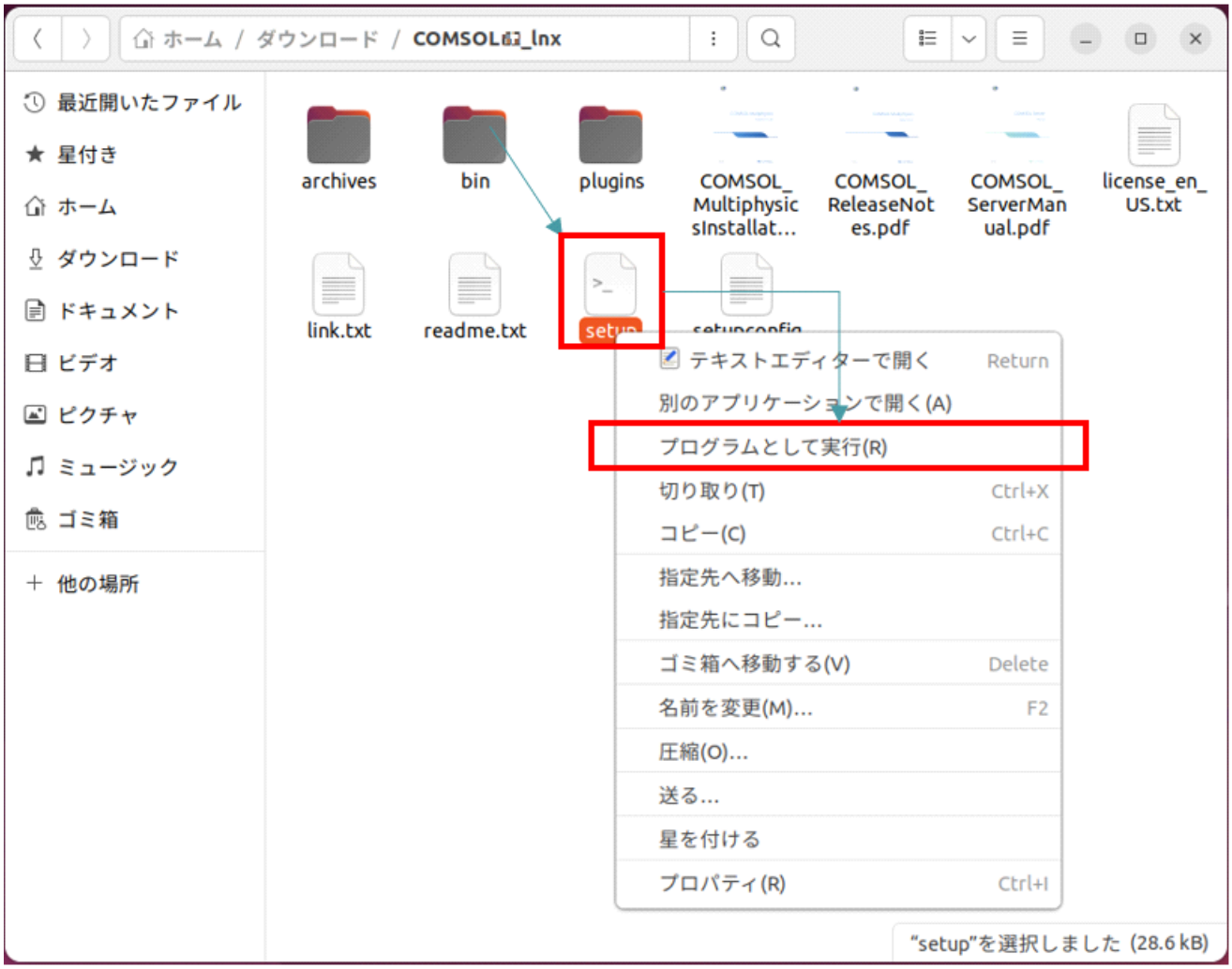

図3-3 setupファイルを右クリックして「プログラムとして実行(R)」（例：Nautilus）

注意１：##は指定されたバージョンの数値に変更します。

[CUI]

i. ターミナルを開き、setupファイルが格納されたディレクトリに移動した上、root権限なしで setup ファイルを実行します。

$ ./setup

⇒ “COMSOL Multiphysics® インストーラー”のGUI画面が起動されます。

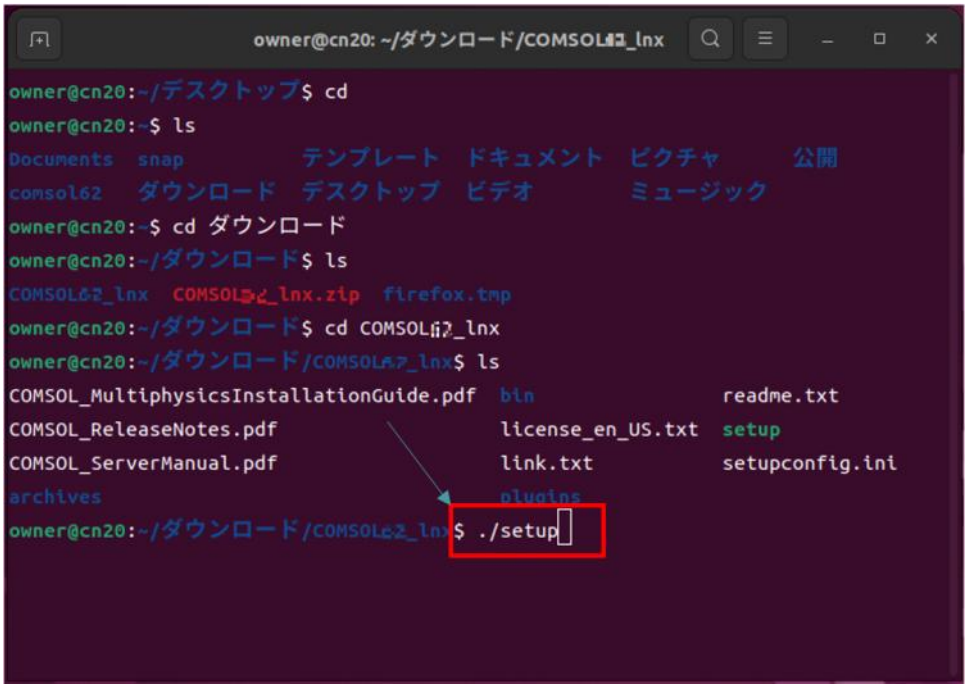

図3-4 setupファイルの実行（root権限は使用しません）

【3.4】 “COMSOL Multiphysics® インストーラー”のGUI画面で、下記操作を行います。

i. “日本語（Japanese)” のラジオボタンをオンにします。

ii. [次へ >]ボタンをクリックします。

⇒ 次の画面へ移行します。

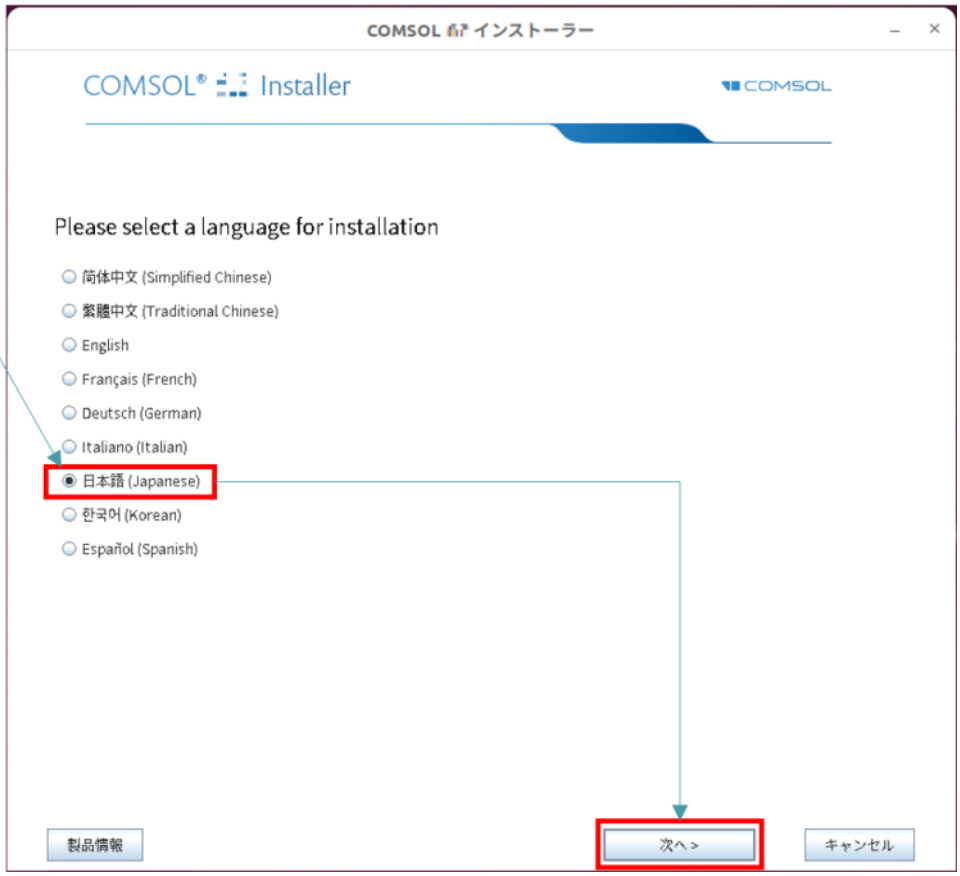

図3-5 言語選択画面

【3.5】 メニュー画面で、下記操作を行います。

i. “新規COMSOLインストール”のアイコン をクリックします。

⇒次の画面へ移行します。

図3-6 メニュー画面

【3.6】 “ライセンス”画面で、下記操作を行います。

i. “私はこのライセンス契約の条項に同意し、これを受け入れることで他の全ての条項が拒否されることを 理解し認めます”の ラジオボタンをオンにします。

ii. “ライセンス書式”ドロップダウンリストから “ライセンスファイル”を選択し、 右側にある[ブラウズ]ボタンを押下します。"ライセンスファイルを選択してください"画面が開きますので、手順【3.2】（←ページ内リンクを設定してもらえないでしょうか）のファイルを指定し、[開く]ボタンを押下します。

iii. "チェック"ボタンを押下し、"ライセンス情報"画面を表示します。「ライセンスは有効です」と記載されることを確認し、[閉じる]ボタンを押下します。（注意１）

iv. "名前"と"会社"にお客様のお名前と貴社名（もしくは所属名）を英文字（１バイト）で入力します。

v. [次へ >]ボタンをクリックします。

⇒次の画面へ移行します。

注意１：「ライセンスを有効化できませんでした」といったメッセージが表示されましたら、テキストエディタ等でライセンスファイルの中をご覧いただき、①バージョン②ライセンスタイプ③ライセンス番号④HostID（MACアドレス）をご確認ください。これらの内容についてご不明な場合、表示されたメッセージと適用したライセンスファイルを添えて文末の問い合わせ先にご連絡ください。

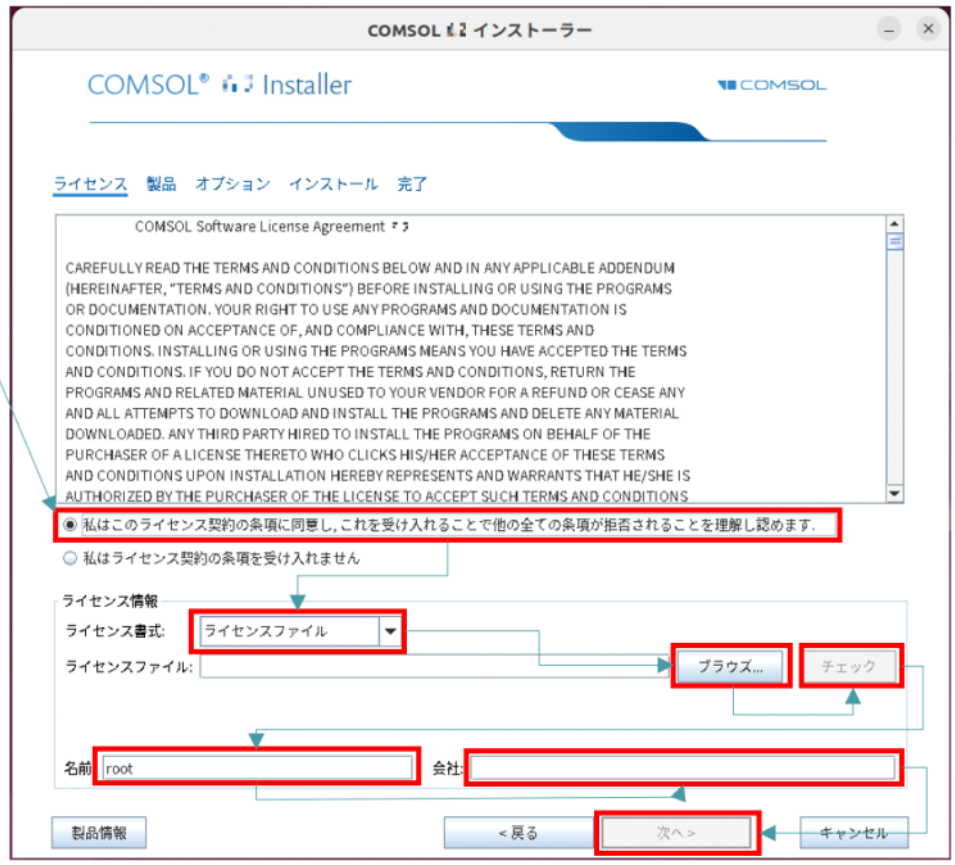

図3-7 ライセンス画面

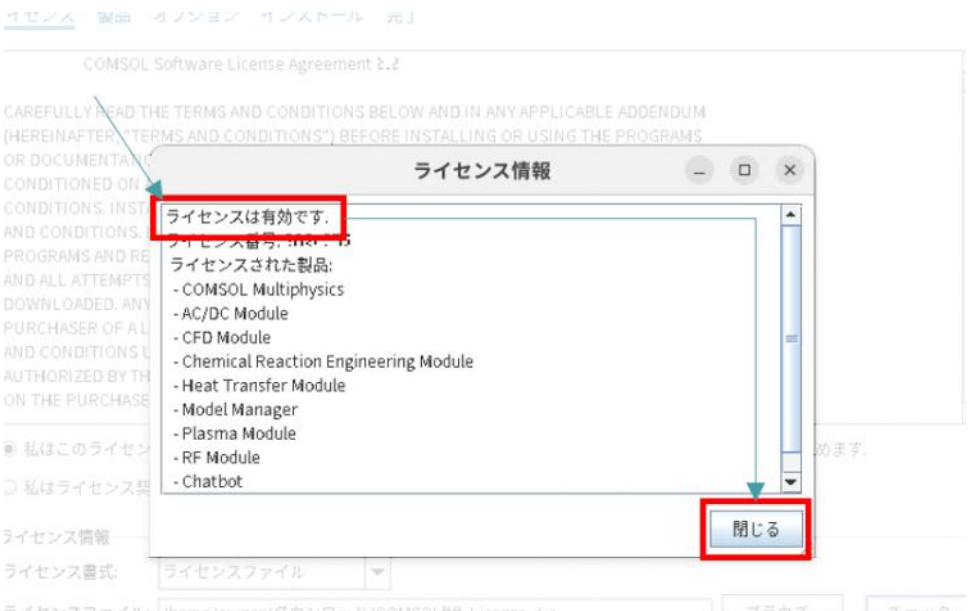

図3-8 ライセンス情報

図3-9 ライセンスを有効化できませんでした（##は指定されたバージョンの数値に読み替えます）

vi. NSLライセンスの場合、下図の”ユーザー名を入力” 画面が表示されます。この画面で入力するユーザー名は、当該Linux®マシンにログインして、COMSOL Multiphysics®を利用するユーザーアカウント名です。（注意２）

vii. ログイン中のユーザーアカウント名を確認したい場合、下図のようにターミナルを起動し、whoコマンドを実行するとユーザーアカウント名を表示できます。

viii. 下図では、当該Linux®マシンのログインユーザーアカウント名 owner を入力しております。その後、[OK]ボタンを押下します。

⇒次の画面へ移行します。

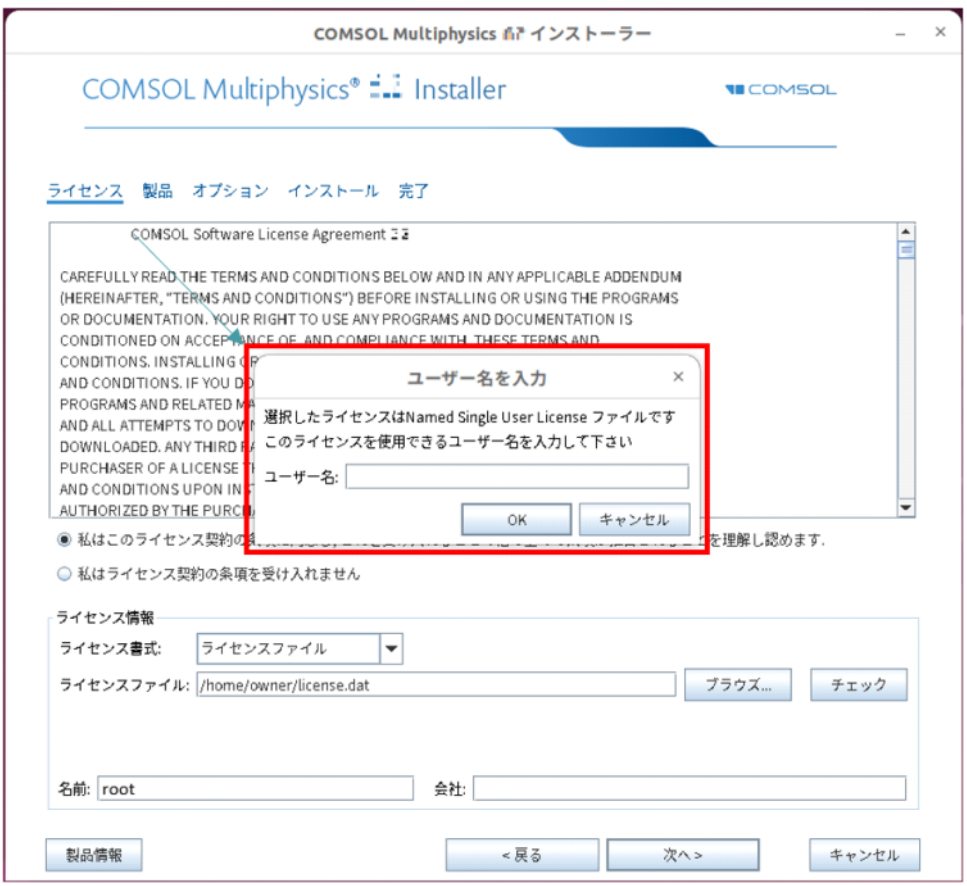

図3-10 ユーザー名を入力画面

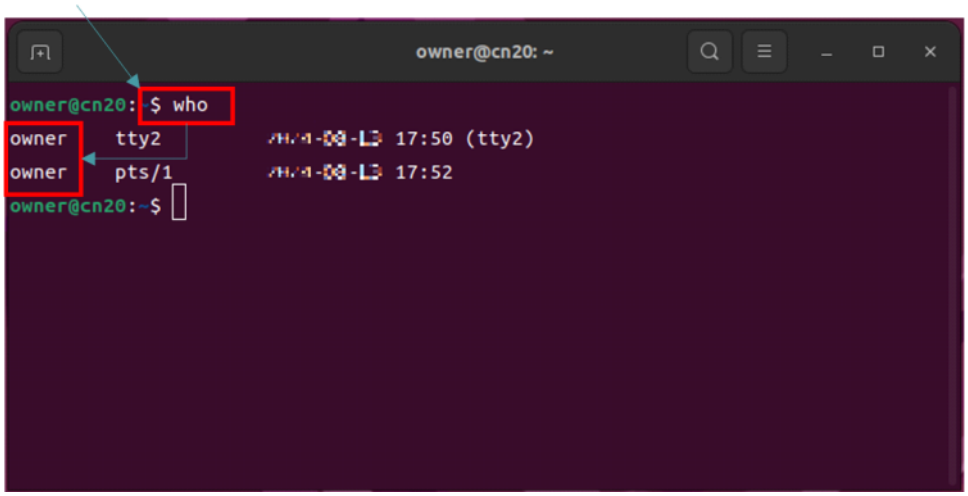

図3-11 ログイン中のユーザーアカウントを確認する方法（whoコマンド）

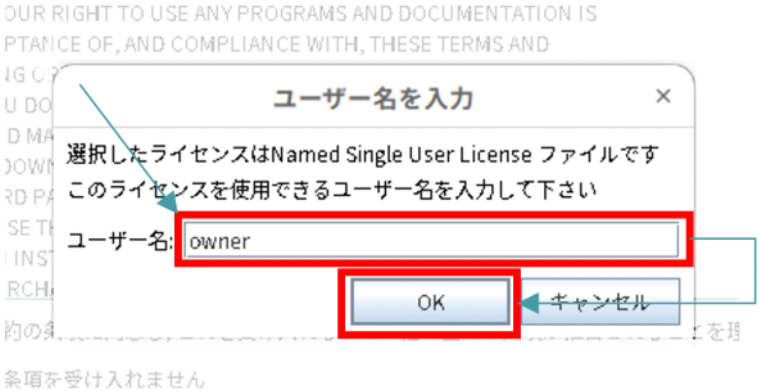

図3-12 ユーザー名を入力した様子

注意２：ここでご入力いただく"ユーザー名"はLinux®マシンのユーザーアカウント名となります。お客様の氏名やメールアドレスではありませんので、くれぐれもご注意ください。

【3.7】 “製品”画面で、下記操作を行います。

i. 画面左側に[インストールする製品を選択してください]が表示されます。ここでは、クイック選択を含めてこのままにしておきます。（注意１、~~注意２~~）
ii. 画面右側に[アプリケーションライブラリ]と[ドキュメンテーション]のラジオボタンが表示されております。同様にこのままにしておきます。
iii. “インストール先フォルダー”は初期設定で下記のようになっておりますが、root権限でsetupファイルを起動しておりませんので、初期設定のディレクトリ（/usr/local/comsol##/multiphysics）は作成できません。そのため、設定例を参考にしていただき、ディレクトリを変更します。（注意２）
    - 初期設定：/usr/local/comsol##/multiphysics
    - 設定例：/home/＜ユーザーアカウント名＞/comsol##/multiphysics
iv. 画面右下にある [ディスク空き容量] の数値を確認します。（注意３）
v. [次へ >]ボタンをクリックします。

⇒次の画面へ移行します。

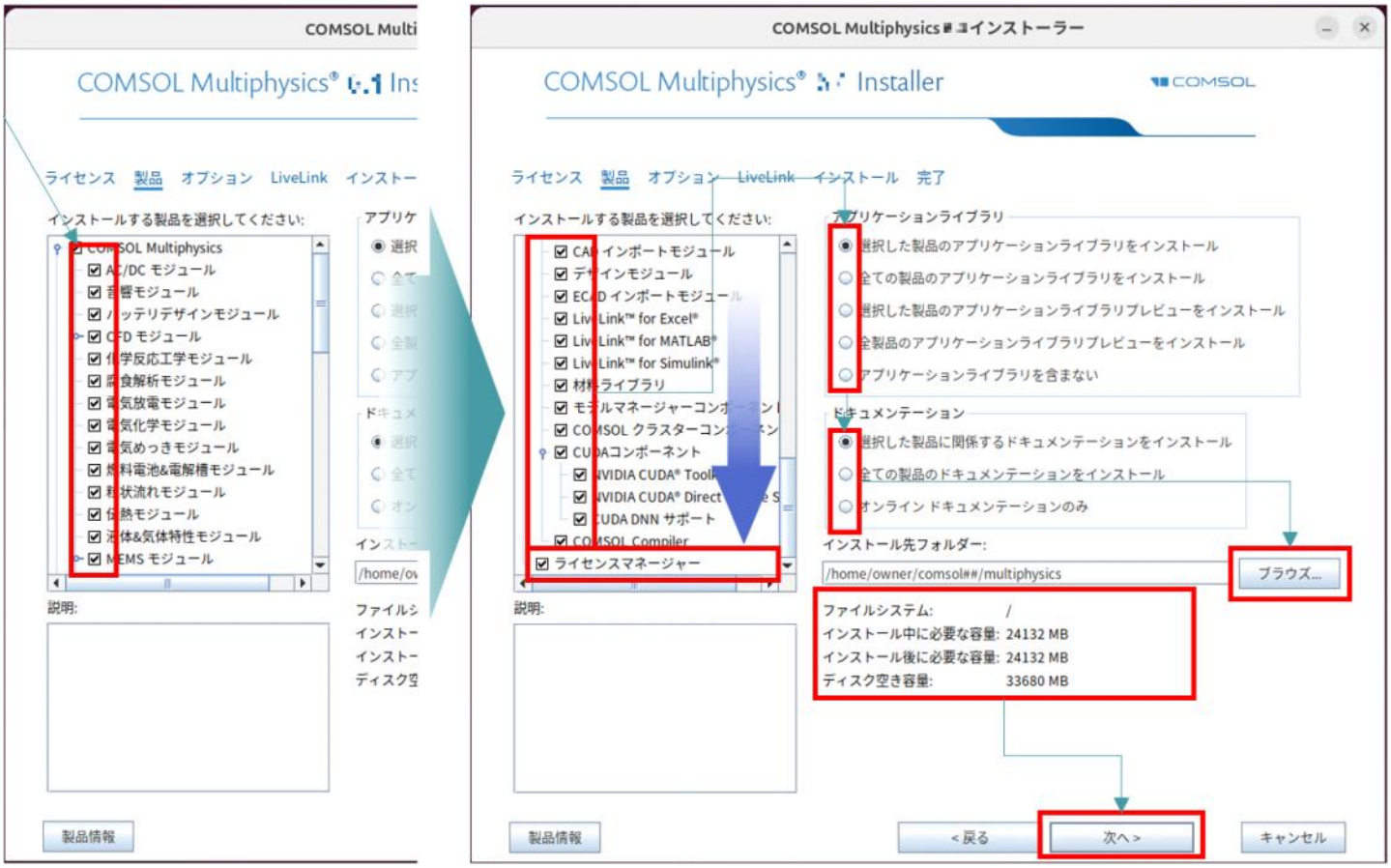

図3-13 製品画面

注意１：一番下までスクロールすると、「ライセンスマネージャー」を選択していることが分かります。本手順はCOMSOLライセンスマネージャーを使用するため、「ライセンスマネージャー」をインストールする必要があります。

注意２：“インストール先フォルダー”のパスに２バイト文字コード（例：日本語）が含まれていると、インストールできない可能性があります。その場合、２バイト文字コードが含まれないよう、フォルダ名を変更します。 また、##も指定されたバージョンの数値に変更します。

注意３：画面右下に必要なディスク容量とインストール先ディスク空き容量が表示されます。ディスク空き容量が足りませんと、[次へ] をクリックした時にエラーが出て処理が継続できません。その際は“インストール先フォルダー”の [ブラウズ...] ボタンをクリックし、別ドライブのフォルダーを選択するといった方法等で対応します。

【3.8】 “オプション”画面で下記操作を行います。

i. デフォルトの設定を確認します。
   - [✓]COMSOLロンチャー作成（注意１）
   - [　]シンボリックリンクを/usr/local/binに作成（管理者権限が必要）（注意２）
   - [　]セキュリティポリシーを設定（注意３）
   - [✓]インストール後アップデートをチェック
   - [　]アップデートに関する自動チェックを有効化
   - [　]新しいリリースの自動チェックを有効にする

- Javaランタイム環境 [標準]（注意４）

ii. 特に問題がなければデフォルトの設定にしておきます。

iii. [次へ >]ボタンをクリックします。

⇒ 次の画面へ移行します。（注意５）

図3-14 オプション画面

注意１：指定されたバージョンのCOMSOL Multiphysics®が既にインストールされている場合、登録されているCOMSOL Multiphysics®のロンチャーを上書きします（想定【4.2.2】iii（←ページ内リンクを設定してもらえないでしょうか））。

注意２：root権限でsetupファイルを起動しておりませんので、COMSOLのシンボリックリンクはグレーアウトされます。

注意３：セキュリティポリシーをデフォルトから変更したい場合、チェックマークを入れます。その後、追加されるセキュリティタブでセキュリティポリシーの設定を変更します。この設定はセットアップが終了した後でもCOMSOLデスクトップの[オプション]>[環境設定...]>[セキュリティ]で変更できます。

注意４：ここでいう[標準]は Built-in（COMSOL Multiphysics®のためにJava™ランタイム環境を組み込む） です。別のJava™ランタイム環境を使用したい場合、[カスタム]に変更し、後段に絶対パスを設定します。

注意５：次の画面は「インストール」画面となります。root権限でsetupファイルを起動しておりませんので、「ライセンスマネージャー」画面に移行しません。そのため、COMSOLライセンスマネージャーをデーモン（いわゆるサービス）としてシステムに設定することはできません。

【参考】 "LiveLink"画面

この画面はLiveLink™モジュールをご契約している場合に表示されることがあります。この画面では下記操作を行います。

i. LiveLink™モジュールをインストールする場合、画面に表示されている各製品（例：MATLAB®）のインストールフォルダーを指定します。（注意１）

ii. [次へ >]ボタンをクリックします。

⇒ 次の画面へ移行します。

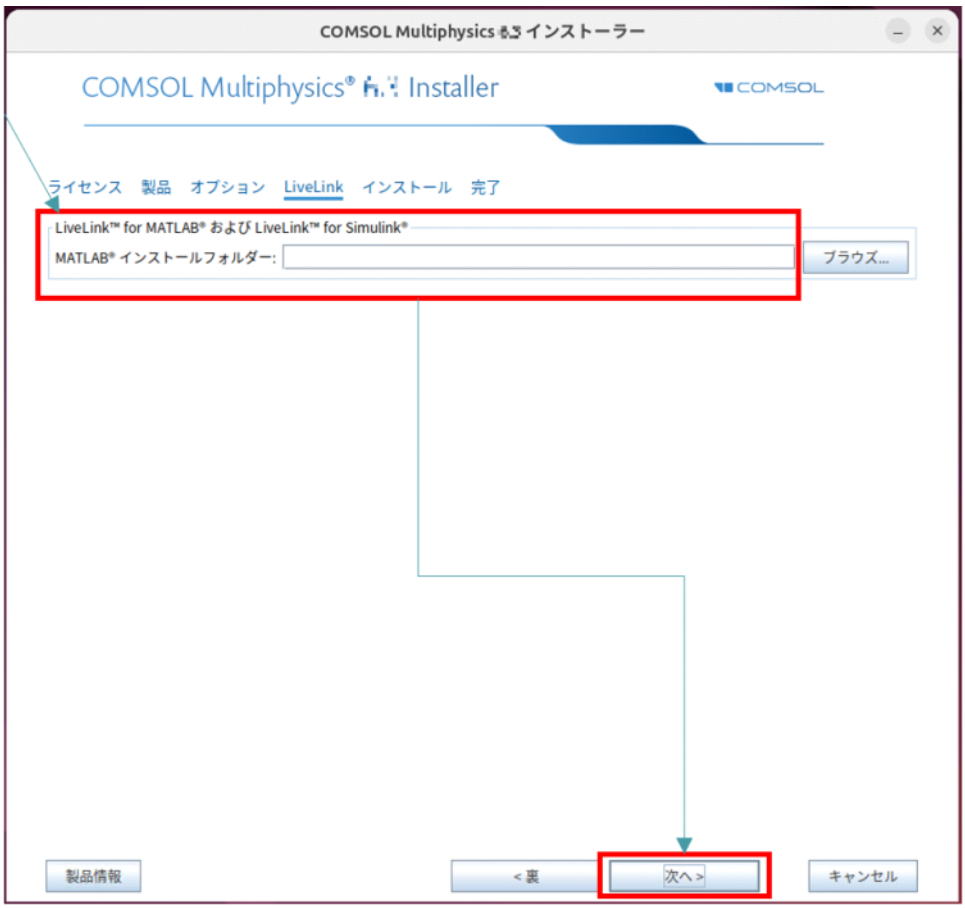

図3-15 LiveLink画面

注意１：LiveLink™モジュールが不要である場合、この画面は無視してください。

【3.9】 "インストール"画面では、モジュールやコンポーネントがリストアップされます。確認しましたら、[インストール]ボタンを押下し、インストールを実行します。

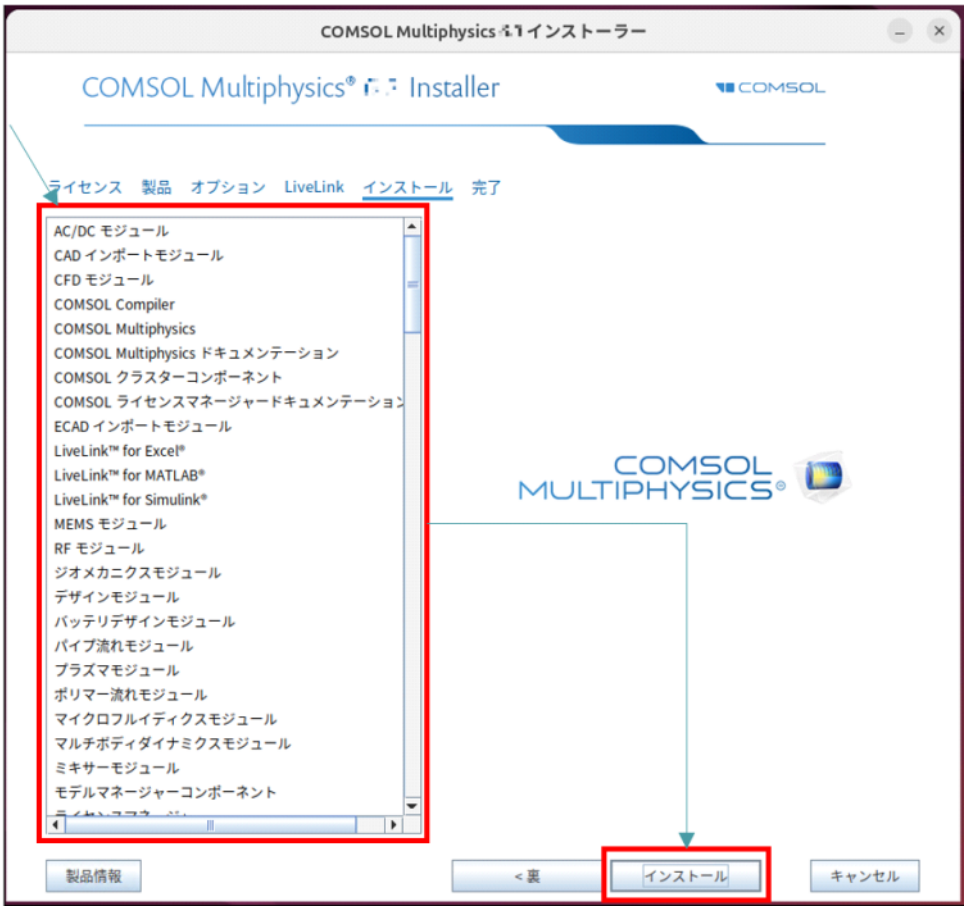

図3-16 インストール画面

【参考】「ファイルダウンロード中にエラー」が発生する場合の対処方法

オンラインインストーラーでCOMSOLのインストールを開始すると、「ファイルダウンロード中にエラー」が発生する場合があります。これはネットワークセキュリティによって COMSOL社のダウンロードサーバーに接続できないことが原因として考えられます。回避策はオフラインインストーラーをご利用いただく方法となりますが、その場合、ダウンロードしたISOイメージファイルをマウントしなければならない点にご注意ください。詳細は下記FAQをご参照ください。

KESCO FAQ：ファイルダウンロード中にエラー　ダウンロードサーバーへの接続をできませんでした
（URL https://kesco.co.jp/support/9749/ を埋め込んでもらえないでしょうか？）

（下記エラーメッセージと分けて表示するため、空白行を一行入れてもらえないでしょうか）

エラーメッセージ

COMSOL

ファイルダウンロード中にエラー

ダウンロードサーバーへの接続をできませんでした

図3-17 ファイルダウンロード中にエラー

【3.10】 終了すると、"完了"になります。画面中央にある[ログを見る]ボタンを押下し、表示内容を確認します。

i. SUMMARY をご覧いただき、WARNINGS、ERRORS、FATAL ERRORS 数を確認します。（注意１）
ii. 今回、WARNINGSが１となっておりますので、このメッセージを確認するため、画面下側にある「次のエラーへ」ボタンを押下します。

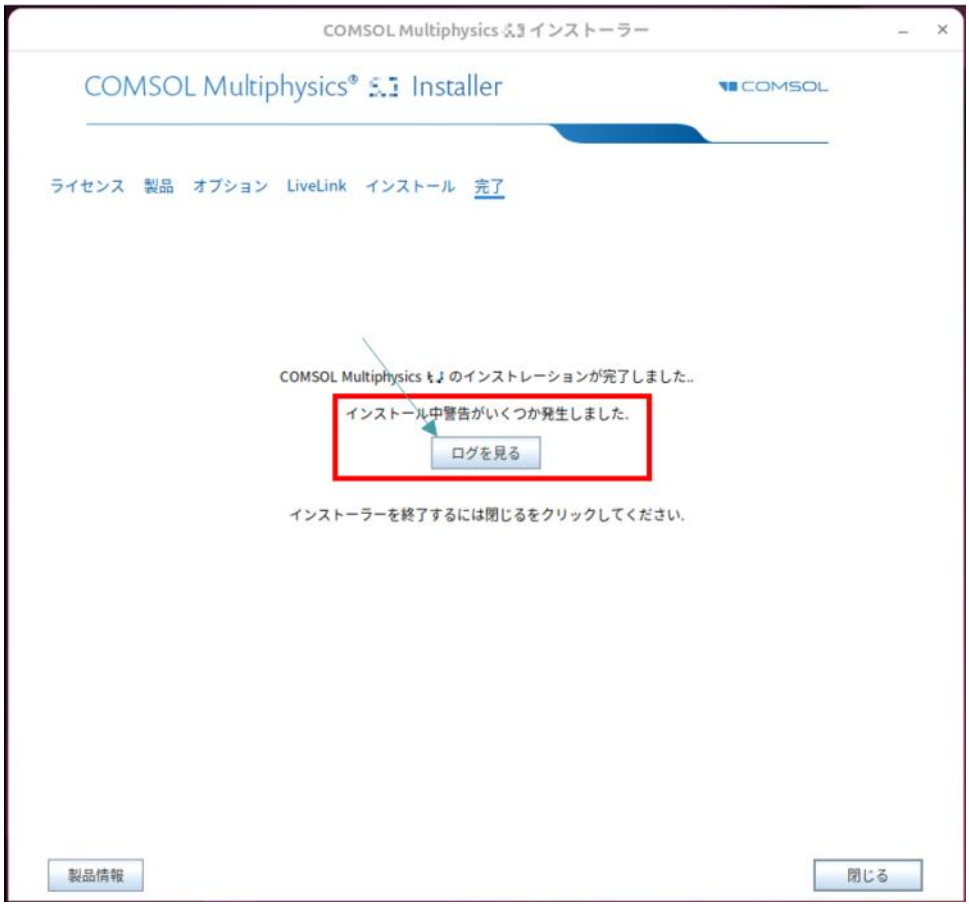

図3-18 完了画面

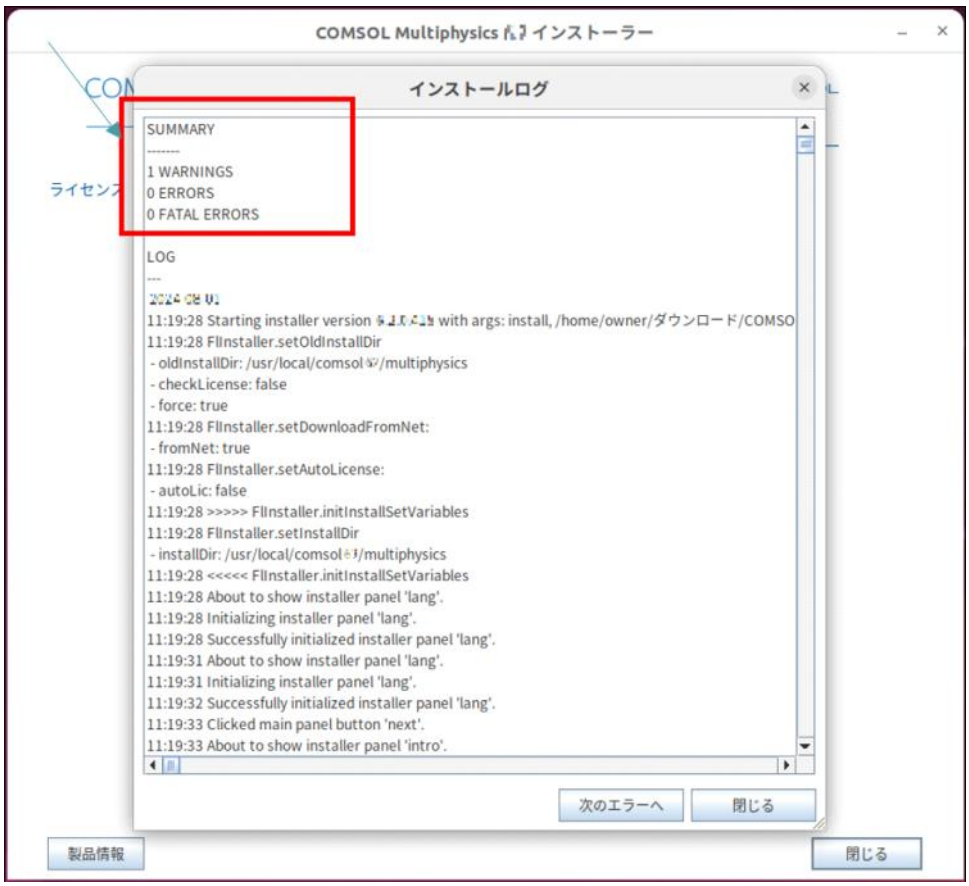

図3-19 インストールログ画面

i. 下記のワーニングはroot権限で setup ファイルを起動しなかったことによ

り、COMSOLライセンスマネージャーが自動実行できるようなセットアップではなかったことを指摘しております。そのため、後述する「4. COMSOLライセンスマネージャーの手動起動」（←ページ内リンクを設定してもらえないでしょうか）でCOMSOLライセンスマネージャーを手動で起動します。

ワーニングメッセージ例

11:27:36 Setup detected a license file that requires a COMSOL License Manager but COMSOL License Manager was not configured to run automatically.
For more information, see the installation guide.

ii. インストールログの[閉じる]ボタンをクリックした後、COMSOL Multiphysics® インストーラーの[閉じる]ボタンをクリックします。

⇒“COMSOL Multiphysics®インストーラー” が閉じます。

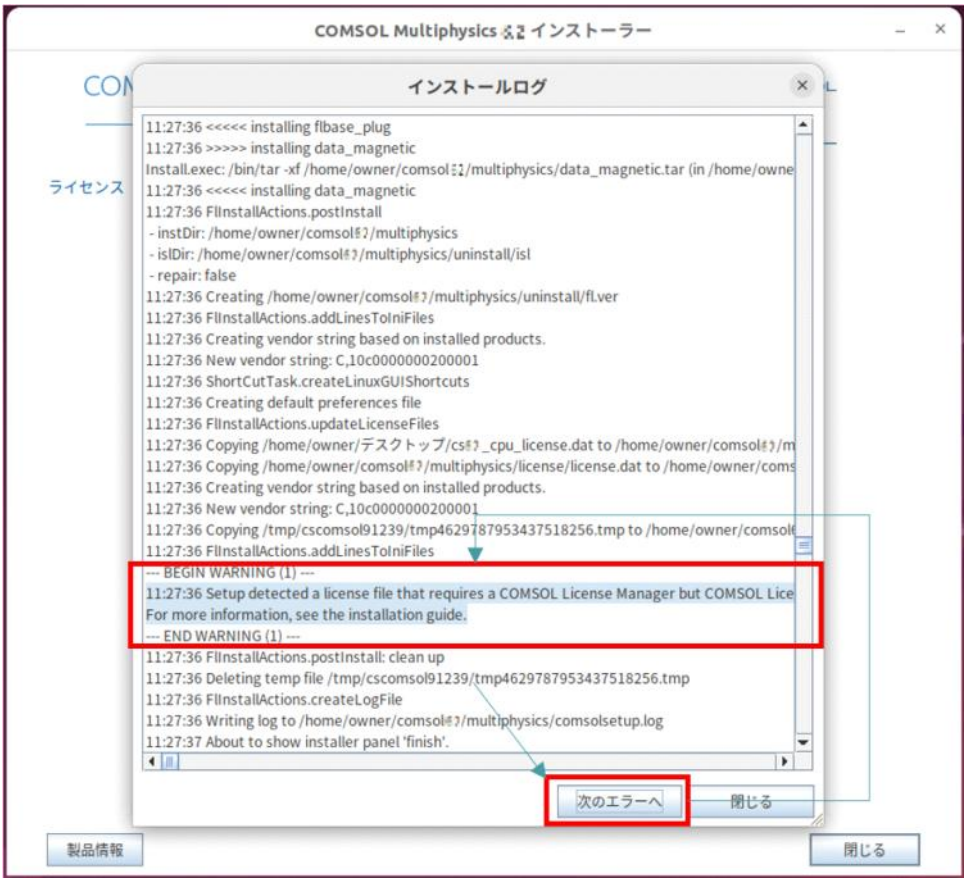

図3-20 当該メッセージの表示

注意１：WARNINGS、ERRORS、FATAL ERRORSが０以外でしたら、その内容をご確認いただければと思います。特にERRORSやFATAL ERRORSが出力された場合は注意深くその内容をご確認いただいた上でご対応ください。対応方法がご不明でしたら、下記のcomsolsetup.logファイルをお問い合わせ先にご送付いただくことで弊社がサポートいたします。下記の##は指定されたバージョンの数値に読み替えてください。

/home/＜ユーザーアカウント名＞/comsol##/multiphysics/comsolsetup.log

【参考】COMSOLライセンスマネージャーが停止中にCOMSOLデスク

トップを起動しようとする際に発生するエラーメッセージ

COMSOLライセンスマネージャーが停止していることに気づかず、COMSOLデスクトップを起動しようとすると、下記のライセンスエラーメッセージが表示されます。

ライセンスエラー
Network connect to THIS_HOST failed.
The license file indicates THIS_HOST, and the server is not
running on this host. If it's running on a different host,
THIS_HOST should be changed to the correct host.
Feature: SERIAL
License path: /home/owner/comsol##/multiphysics/license/license.dat:
FlexNet Licensing error:-95,378. System Error: 115 "現在処理中の操作です"

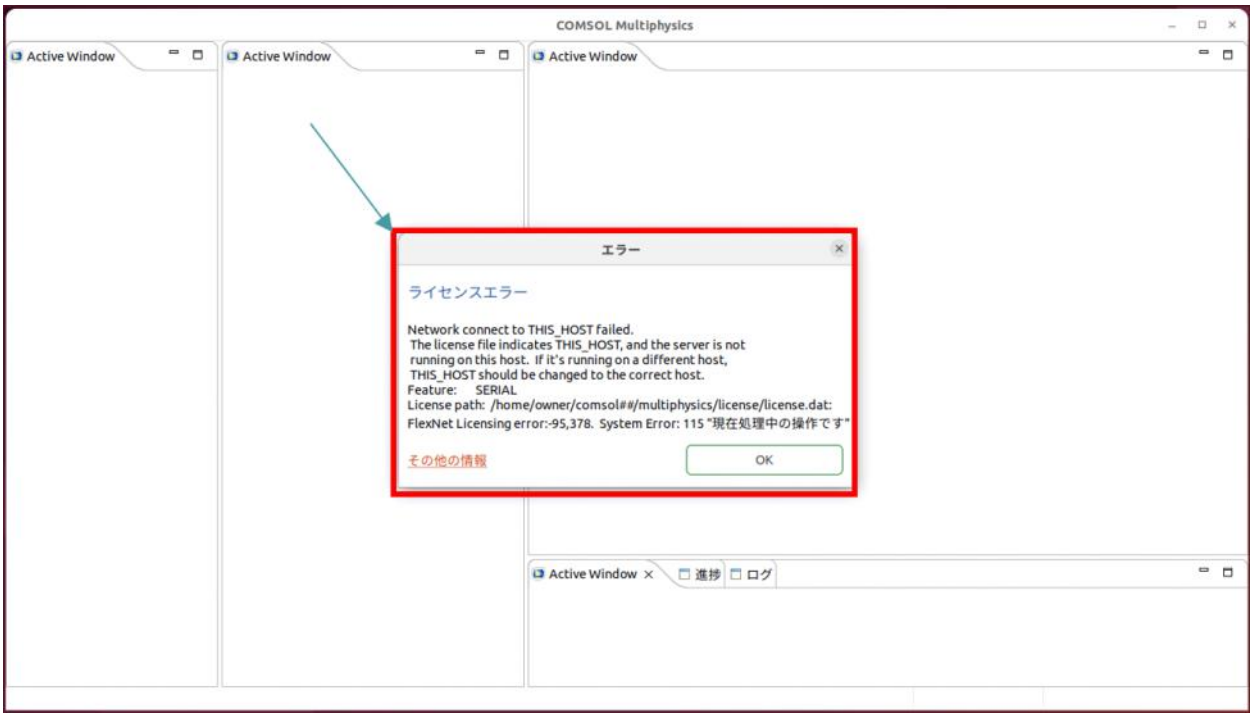

図3-21 ライセンスエラーメッセージ（FlexNet Licensing error:-95,378. System Error: 115"現在処理中の操作です"）

4. COMSOLライセンスマネージャーの手動起動

【4.1】 COMSOLライセンスマネージャーの起動状態を確認します。

i. COMSOL Multiphysics®インストーラーが終了していることを確認した後、ターミナル（端末）を起動します。

ii. ターミナルで下記コマンドを実行します。

$ ps -aux | grep comsol | grep lmgrd

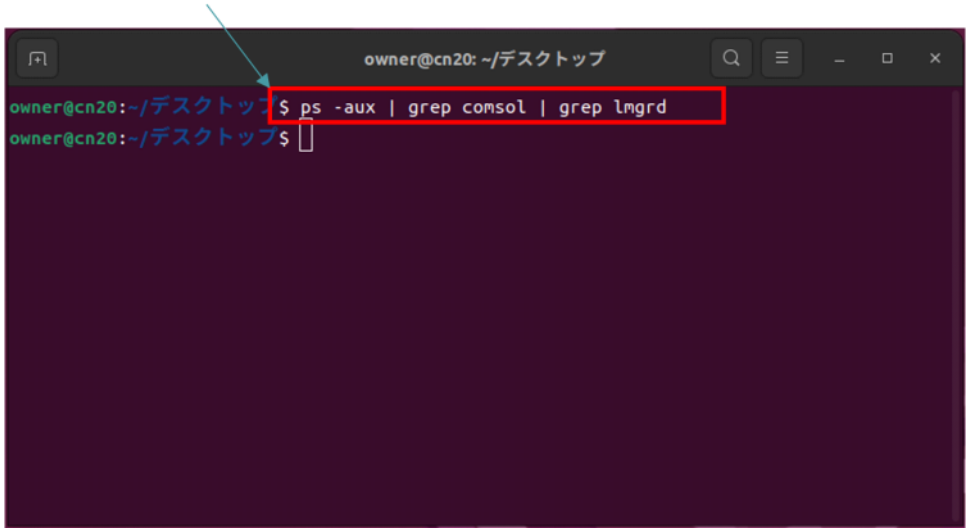

図4-1 プロセスの起動状態

コメント：COMSOLに関連するlmgrdとLMCOMSOLのプロセスが表示されていない場合、COMSOLライセンスマネージャーが起動していないと判断します。

【4.2】 COMSOLライセンスマネージャーを手動で起動します。

i. COMSOLライセンスファイル（ファイル名：license.dat）が所定の場所に格納されていることを確認します。下記の##は指定されたバージョンの数値に読み替えてください。
   $ cd /home/＜ユーザーアカウント名＞/comsol##/multiphysics/license
   $ ls

ii. COMSOLライセンスマネージャーがインストールされているディレクトリに移動します。
   $ cd ./glnxa64

iii. ここではroot権限なしでCOMSOLライセンスマネージャーを起動するため、下記コマンドを実行します。下記の##は指定されたバージョンの数値に読み替えてください。
   $ ./lmgrd -c ../license.dat -L ../comsol##.log

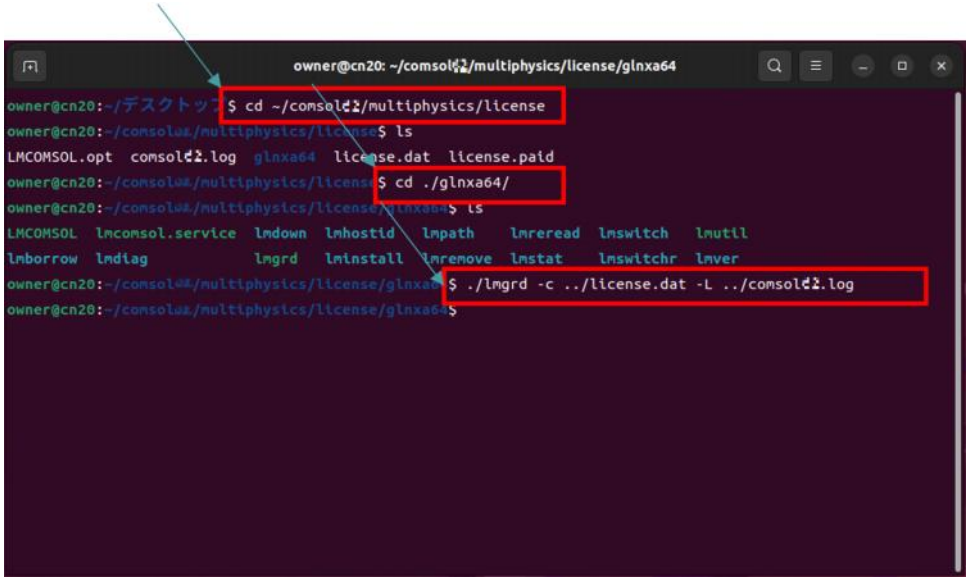

図4-2 COMSOLライセンスマネージャーの手動起動

【4.3】 COMSOLライセンスマネージャーの起動状態を確認します。

i. ターミナルで下記コマンドを実行します。（注意１）

コマンド名：$ ps -aux | grep comsol | grep lmgrd

出力結果：

owner@cn20:~/comsol##/multiphysics/license/glnxa64$ ps -aux | grep comsol | grep lmgrd

owner 2520 0.0 0.0 13648 3636 ? Sl 15:47 0:00 ./**lmgrd** -c ../license.dat -L ../comsol##.log

owner 2522 0.0 0.1 177260 4492 ? Ssl 15:47 0:04 LMCOMSOL -T cn20 11.18 7 -c :../license.dat: -srv OQHpkeanRXRXDqnntGT3bnVb1kmq0p4UFVCDYYz1ix6LrhGrHA0LLDn0cngw5TQ -daemon_port 6b7 --**lmgrd**_start 66bef617 -vdrestart 0 -l ../comsol##.log

owner@cn20:~/comsol##/multiphysics/license/glnxa64$

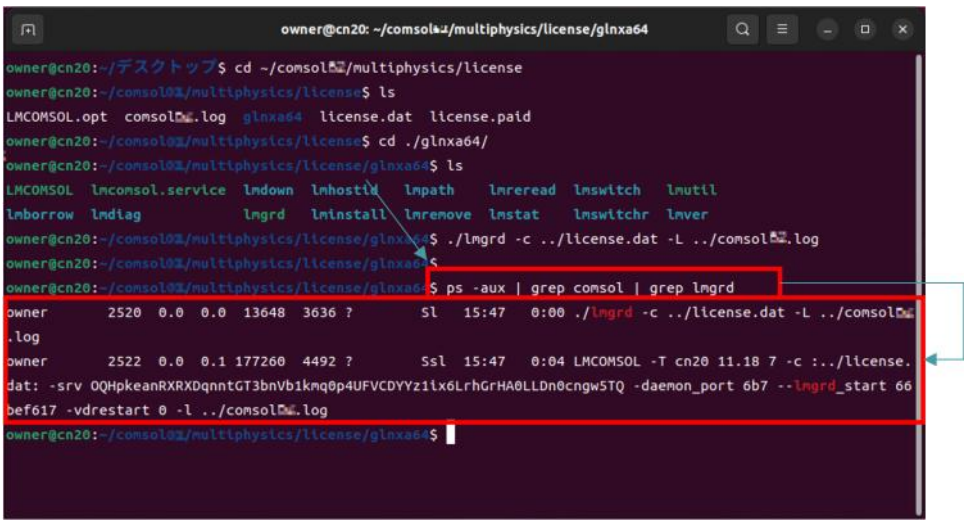

図4-3 プロセスの起動状態

注意１：##は指定されたバージョンの数値に読み替えてください。

コメント：COMSOLに関連するlmgrdとLMCOMSOLのプロセスが表示されている場合、COMSOLライセンスマネージャーが起動していると判断します。

5. COMSOLデスクトップの起動

【5.1】 Linux®のランチャーを使用し、COMSOLデスクトップを起動します。

i. ここではUbuntu®の統合デスクトップ環境を例に取り上げます。画面左下にあるランチャーを押下し、アプリケーションを表示します。この中からCOMSOL Multiphysics®##のアイコンを押下します。

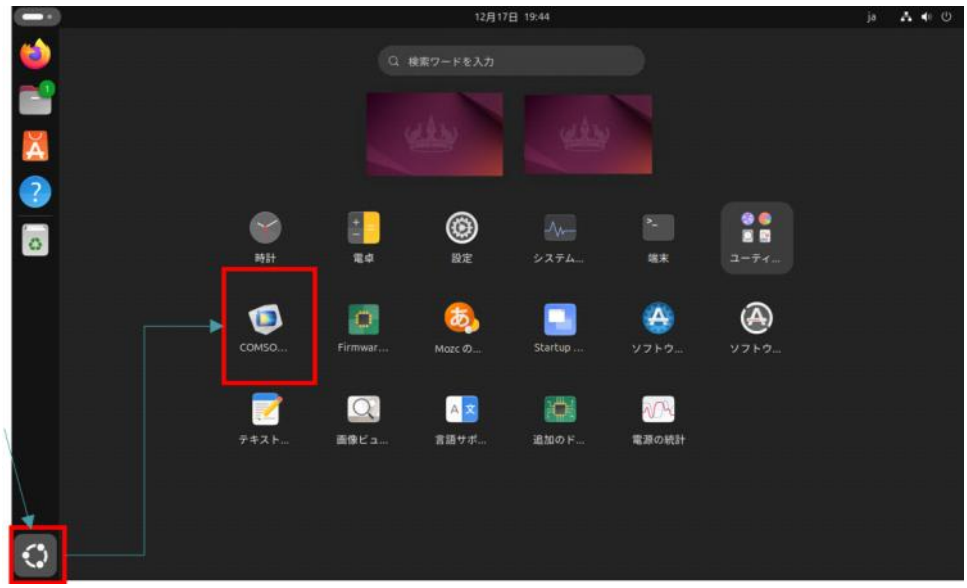

図5-1 Linux®ランチャーに登録されているCOMSOL Multiphysics®##

ii. COMSOLデスクトップが起動されます。

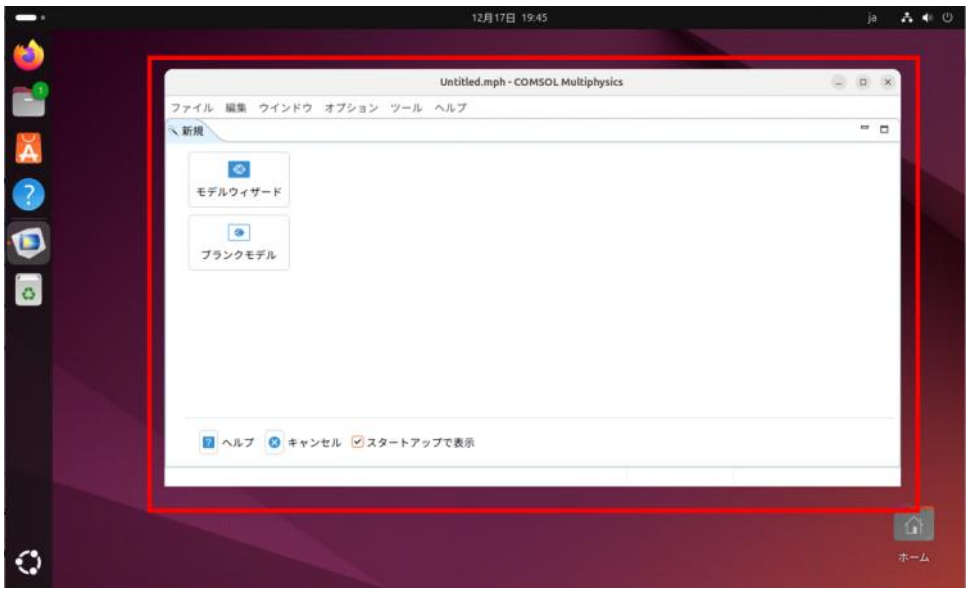

図5-2 COMSOLデスクトップ

コメント：COMSOLデスクトップが起動できない場合、下記のお問い合わせ先にご連絡ください。

【参考】「COMSOL Multiphysics GUIのライセンスが得られませんで

した」が発生する場合の対処方法

契約上、NSLライセンスは使用できるユーザーを指定しております。そのため、Linux®版のCOMSOLをセットアップする際、ユーザー名を設定していただいております。結果、設定されているユーザー名のみCOMSOLデスクトップが起動できることになります。設定されていないユーザー名でCOMSOLデスクトップを起動しようとすると、下記のライセンスエラーが発生する仕組みになっております。

そのため、本エラーメッセージを回避する方法は以下の通りとなります。

i. 設定しているユーザーアカウントでLinux®にログインし、COMSOLデスクトップを起動してください。

ii. COMSOLセットアップで設定したユーザー名が誤っている場合、LMCOMSOL.optファイルを直接編集するか、ご面倒であれば、再度COMSOLセットアップしてください。

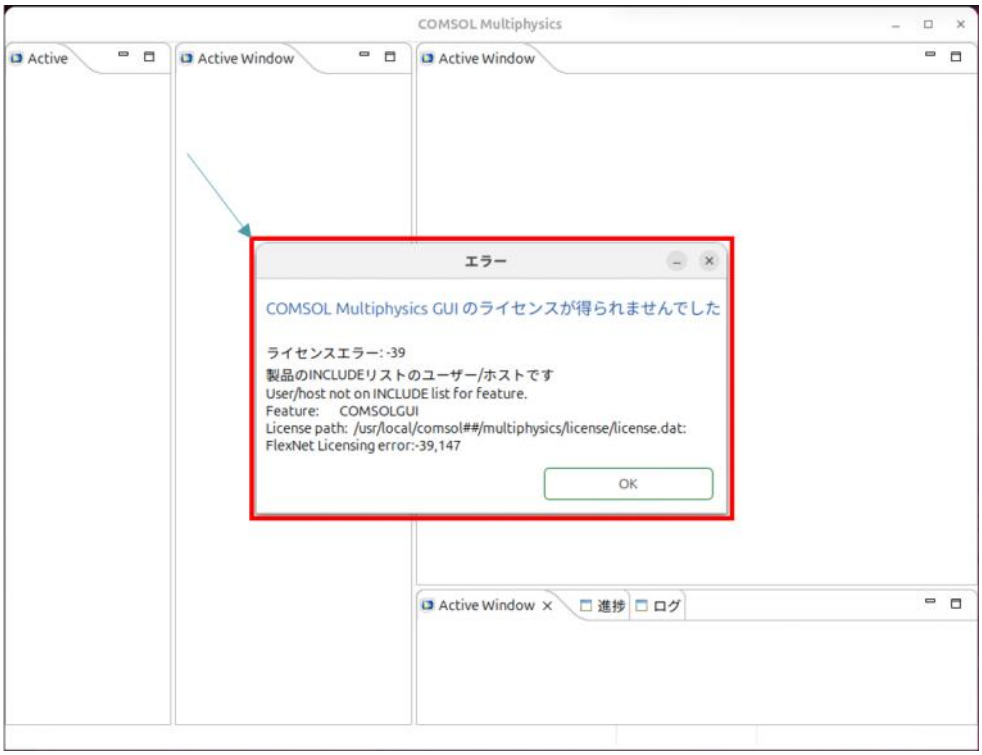

図5-3 COMSOLデスクトップが起動できない場合のエラーメッセージ（COMSOL Multiphysics GUIのライセンスが得られませんでした）

【参考】Linux®のデスクトップ環境でCOMSOLデスクトップを複数起動する方法

Linux®の場合、COMSOL Multiphysics®は制御端末（ディスプレイ変数）ごとにライセンス数をカウントします。そのため、複数のCOMSOLデスクトップを１シートで運用する場合、下記のうち、どちらか一方でCOMSOLデスクトップを起動します。

1. Linux®のランチャーからCOMSOLデスクトップを複数起動します。
2. 同じターミナルからCOMSOLデスクトップを複数起動します。

詳細につきましては下記 FAQ をご覧ください。

KESCO FAQ：Linux®のデスクトップ環境でCOMSOLデスクトップを複数起動する方法

（上記の下線を引いた文章はURL https://kesco.co.jp/support/10250/ を埋め込んでもらえないでしょうか？）

• お問い合わせ先

COMSOL Multiphysics®を正常にセットアップできない場合、もしくはCOMSOLデスクトップが起動できない場合、下記情報を収集していただき、弊社の問い合わせ窓口にご送付ください。

- 問い合わせ先窓口

  KESCO担当営業がお客様に「ライセンスファイル」を送付した場合⇒①
  お客様が直接KESCO技術サポートに依頼したい場合⇒②

①	窓口：KESCO担当営業 Eメール：KESCO担当営業のメールアドレス
②	窓口：KESCO技術サポート URL：https://kesco.co.jp/supportlist/

- お寄せいただきたい情報
  i. エラーメッセージ等をキャプチャーした画像ファイル
  ii. Linux®ディストリビューション名とバージョン（下記）
  iii. インストールに使用したライセンスファイル
  iv. COMSOLインストールログファイル（下記）
  v. COMSOLライセンスマネージャーログファイル（下記）
  vi. COMSOLライセンスオプションファイル（下記）
  vii. 上記 i ~ vi 以外で指示されたファイル
- Linux®ディストリビューション名とバージョンを下記コマンドで採取します。
  コマンド　$ cat /etc/os-release > ~/os-release.out
- COMSOLインストールログファイルのデフォルト保存場所（注意１）

  /home/＜ユーザーアカウント名＞/comsol##/multiphysics/comsolsetup.log
- COMSOLライセンスマネージャーログファイルのデフォルト保存場所（注意１）

  /home/＜ユーザーアカウント名＞/comsol##/multiphysics/license/comsol##.log
- COMSOLライセンスオプションファイル保存場所（注意１）

  /home/＜ユーザーアカウント名＞/comsol##/multiphysics/license/LMCOMSOL.opt

注意１：##は指定されたバージョンの数値に読み替えてください。

以上